

平成29年度

平成30年2月28日

学 校 だ よ り



夢に近づけ 今、鴨居がいいかも！
横浜市立鴨居小学校

電話 045(931)2062

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kamoi/>

「人を育てるには」

校 長 石原 敏宏

先日の研修会で、ソコリキ教育研究所の大住力さんの「ディズニー一流人材育成」についてのお話を聞くことができました。大住さんが東京ディズニーランド等を管理・運営するオリエンタルランドに勤務していたときのお話で、なるほどと感じたところがたくさんありました。

その中のひとつに掃除や案内をする人（カストーディアルキャスト）の人材育成についてのお話がありました。初めてディズニーランドを訪れたお客さんにアンケートをとると、その半数の人が「掃除をする人の動きが素晴らしい」と答えているそうです。

カストーディアルキャストの9割はバイトやパートで、時給も900円程度と安いのに働く意欲が高いのはなぜか。それは、「ごみを拾おう」「ゲストの写真を撮って差し上げよう」「案内をしよう」の3つをゲストに対して実践することで、1日平均150～200回の会話を交わし「ありがとう」の言葉をゲストからいただくことで、自己有用感をもつことができ、自ら成長することができるからだというお話でした。

「自己有用感」とは、自分が有用だと思える感情です。自分の存在が周りの人の役に立っている、貢献していると認識できているときに、この感覚を覚えます。「自己有用感」が高ければ、周囲への貢献意欲も高まりますし、感謝の気持ちも芽生えます。これは、教育活動を行う上でも重要な言葉です。学校では、子どもたちが自己有用感を持つことができるような活動を積み上げていく必要があります。学級の中では、一人が一役を受け持ったり、自分に何ができるかを考えて実践したりする活動を積み上げています。また、高学年は委員会活動を行ったり、縦割り活動で他の学年の世話をしたりする中で、自己有用感を育んでいます。

また、ディズニーでは仕事を考えるとき、「マニュアル（やらなくてはいけない仕事）が60%、自分の頭で考えて行う仕事が40%である。」と捉えていて、本来の仕事は自分の頭で考えて行う方だと考えているというお話も聞きました。

確かにマニュアルは便利で必要ですが、それがすべてではありません。それはおそらくどんな仕事にも当てはまることなのでしょう。また、教育活動においても「自分で考え行動できる子」になれるように子どもたちを育てていくことが大切です。生き方にマニュアルはありません。ですから、最後は自分が判断して決めていかななくてはなりません。失敗もしますし、思い通りにいかないこともたくさんありますが、それでも自分が決めた道を歩んでいける子どもたちに成長して欲しいと願っています。

今回の研修を通して、人を育てるのに大切なことは何かを再認識することができました。そして、私は私のできることをしっかりとやっけていこうと改めて思いました。